

## ■短文記述問題 (140字以内・各10点)

【1】国内の美術館では、日本の古典絵画作品は展示期間が短いなど、展示環境に様々な制約があるのはどのような理由からですか。

日本の古典絵画作品の多くは、紙本や絹本のような脆弱な天然素材が支持体である。そのため、温度や湿度、照度などの環境変化の影響を受けやすい。展示環境では収蔵庫の環境とは異なり、これらの管理の徹底が難しく、退色やシミ、カビなど作品の劣化を早める原因になるためである。

【2】正倉院宝庫に代表される古来の「宝物庫」と、近代以降の「美術館」の違いを説明して下さい。

古来の宝物庫は、権力者や寺社が収集した重要文物の保管と保存を主要目的とした私的な倉庫であった。一方、近代以降の美術館は、作品の収集・保存・調査研究・展示を役割とする社会教育施設である。また、公的にも開かれ、誰でも作品をみる事ができる場でもある。

【3】西洋美術の宗教的な主題である「ピエタ」について説明して下さい。

キリスト教の新約聖書にあるピエタとは、イタリア語で虔虔、慈悲、哀れみを意味する言葉である。絵画や彫刻に表現されるピエタは、キリストの磔刑の後、十字架から降ろされた我が子の亡骸を聖母が抱き、その死を嘆き哀しむという場面の聖母子像をいう。

## ■長文記述問題 (500字以内・各35点)

※問題の図版および略歴、テキスト等は、紙面の都合上割愛させていただきました。

※模範解答は合格者の解答に一部加筆修正したものです。解答の一例としてご参照下さい。

【4】あなたは、ある展覧会の一般来館者向け解説ボランティアとして、下図の作品解説を担当することになりました。あなたならどのような解説をしますか。[A]～[C]の資料をバランスよく利用したうえで、解説内容を記述して下さい。また、来館者が同時代の作品をより深く鑑賞する手助けとなるような内容に構成して下さい。

## &lt;資料&gt;

[A] (図版)

エミール・ノルデ《最後の晩餐》1909年制作  
油彩・キャンヴァス、66cm×107cm、コペンハーゲン国立美術館蔵

[B] エミール・ノルデ略年歴

[C] エミール・ノルデに関するテキスト

(引用元)

- ・千足伸行監修『新西洋美術史』p389-390、西村書店、1990年
- ・土肥美夫著『ドイツ表現主義の芸術』p191、岩波書店、1991年
- ・エミール・ノルデ回想録『戦いの年』/ Jahre der Kämpfe, Emil Norde, "Years of Struggle", 1912-14 / trans.1934 より抜粋、翻訳

## &lt;解答例1&gt;

この作品を描いたのはエミール・ノルデ。19世紀後半から20世紀半ばにかけて、現在のドイツを中心に活躍した画家です。

この絵はどのように、荒々しいタッチ、鮮やかな色彩が印象的で、力強い生命を感じさせるような作品です。タイトルは《最後の晩餐》。西洋の宗教画では有名な主題ですが、例えばレオナルド・ダ・ヴィンチの作品のように白人らしく描く伝統や形式にも則ってはいません。

ノルデもかつては装飾デザインの講師をしたり、30代の頃はモネやルノワールで知られた印象主義や、セザンヌなどのポスト印象主義に影響されたりと、視覚的外面的な表現を重視した超自然主義と特徴づけられていました。

しかし、この作品でノルデは、感覚的内面的な価値を全面に打ち出しています。彼は回顧録の中で「シンプルな造形のなかに情熱的な、しばしばグロテスクな表現」である生来持つ表現への喜びにあふれたプリミティヴ美術を志向したと語っています。

この絵が描かれた20世紀初めから多くの画家が旧来と異なる表現を模索しており、その先駆けともいえます。

## &lt;解答例2&gt;

エミール・ノルデという画家をご存知でしょうか。日本では馴染みの薄いノルデは、1867年プロイセンに生まれ、スイスやドイツで絵を学びながら同時代の印象主義にも親しみます。その後活動を続けていく中で、皆さんもご存知のムンクらとも出会い、見知を広めます。この《最後の晩餐》は、その2～3年後に描かれました。

この作品は、同じ主題で有名なダ・ヴィンチ作品とは全く別の内容に見えます。まず従来のキリスト教絵画のように本来ユダヤ人のキリストを白人として描くことを否定しています。第2に宗教画らしからぬ荒々しいタッチと精彩に富む色彩が特徴的です。彼は宗教画の制作動機を「視覚的外面的刺激から感覚的内面的価値への転換」とし、色で何かを描くのではなく、色が主体となり内容に精神的価値を与える表現を目指したのです。力強い色彩やタッチは、北方の荒涼たる原始的な生命力や情熱を感じさせるプリミティヴ美術と結び付けられました。

ただ、その大胆さやしばしば用いられるグロテスクな表現により、聖職者の圧力により展示拒否にあたり、一度は自身も党员となったナチスから退廃芸術とされ監視下に置かれるなど、波乱の人生を送りました。

【5】あなたは、小学校6年生の授業で、以下の作品を題材にワークショップの講師を務めます。事前準備として、子どもたちに向けて作品解説を書くことになりました。資料[A]～[C]をバランスよく利用したうえで、わかりやすく解説を記述して下さい。また、子どもたちが作品鑑賞についてより深く考えられるように文章を構成して下さい。

<資料>

[A] (図版)

柳幸典《パシフィックーザ・アント・ファーム・プロジェクト》  
1996年制作、アリ、着色した砂、プラスチック・ボックス、プラスチック・チューブ、プラスチック・パイプ  
30cm×45cm×49個、テート・ギャラリー蔵

[B] 作品の展示キャプション(テート・モダン)と略歴

[C] 《パシフィック》に関する記事など

(引用元)

- ・テート・ギャラリー編、奥村高明・長田謙一監訳『美術館活用術～鑑賞教育の手引～』p77、美術出版社、2012年
- ・岡部あおみ「柳幸典」、武蔵野美術大学芸術文化学科 web サイト『Culture Power』、2007年
- ・福住廉取材・文「柳幸典」、『美術手帖』2003年6月号p89、美術出版社

<<解答例1>>

皆さんは6年生なので、世界には数多くの国があり、多種多様な民族で構成されていることを知っています。また、歴史を学ぶことにより、それらの国や民族間で、領土や国境を巡って戦争が繰り返されてきたことも知っていますね。

この作品には、様々な旗が着色された砂でかたどられています。アメリカやイギリスなど誰もが知っている旗から、あまり知られていない先住民の旗まであります。この作品の作者は、旗をかたどった砂のボックスの中に数千匹のアリを放ち、アリが旗から旗へと動いて侵食していく様子を作品にしました。

旗の中を自由に動きまわって作られたアリの通り道を見てください。アリが動きまわってきたこの道は、何なのでしょう。人や経済の動きでしょうか。アリは、国の大きさに関係なく通っています。そこにあるのは新しい国境や国家かもしれません。過去から未来へと、世界の国々は変化し続けています。すべての国旗が砂でできていて自由に通り道が作れるこの作品、見ているうちに国境が砂のように崩れてしまうようにも思えます。

<<解答例2>>

この作品は柳幸典が1996年に作った《パシフィックーザ・アント・ファーム・プロジェクト》です。縦30センチ、横45センチのプラスチックの箱に着色した砂を詰めたものがそれぞれの地域の旗を表しています。国旗にはアメリカやイギリスなどの大国の他に少数民族のものも含まれています。作者はこの49個の箱の中に数千匹のアリを放って、彼らが砂を運ぶ様子を作品にしました。

アリの動きは、国家間の経済や権力、移民などの移動や国が侵され新しい国境が作られることを示しています。作者は国家とは何か、国境や国旗は現実にはどんな役割を果たしているのかということ問いかけているようです。

この作品を見た人の中には、アリを経済活動に熱心な日本人に重ねた人もいました。また、国々の垣根がどんどんなくなって1つになる世界、それによって被害を受ける人やそこで起こる争いを思い起こした人もいました。作者は、それらは結果であってその奥に結果をもたらす仕組みがあると云います。それははっきりと目には見えませんが、今私達の生活の基盤にあると考えています。作者はこの作品を作ることによって、その仕組みを目に見えるようにしようと思ったのです。

■■採点のポイント■■

■短文記述問題(【1】～【3】共通)

美術に関する用語について、正確に理解し、適切な記述がなされているかどうか

■長文記述問題

下記の3つのポイントについて、各資料を元に自分なりの解釈で、伝える相手に適切な論を展開しており、妥当であるかどうか

【4】

(1)コミュニケーション

美術に詳しくない一般来館者向けの解説になっている

(2)資料読解・活用

どの資料からも適切に情報を取り出し、美術用語も適切に使用している

(3)論理的構成力

同時代の作品鑑賞の手助けに大いになっている

【5】

(1)コミュニケーション

小学校6年生がわかりやすい解説になっている

(2)資料読解・活用

どの資料からも適切に情報を取り出している

(3)論理的構成力

子どもたちがより深く考えられるようになっている